

2022年12月11日 午前礼拝
「キリストの謙遜」 説教者：小林太秀伝道師

【引用聖句】

ピリピ 2:6~8

6. キリストは神の御姿である方なのに、神のあり方を捨てられないとは考えず、
7. ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられました。人としての性質をもって現れ、
8. 自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われました。

【説教要約】

12月といえばクリスマスだ。クリスマスの何がすごいのか。「神が人となってこの世界に來られた」ということに尽きると思う。

私は仕事柄、色々な方と関わる機会があるが、ごみ屋敷に住んでいる人の掃除を手伝ったことがある。テレビではごみ屋敷の番組を見たことがあるが、画面で見ると実際の現場にいるのとでは受ける印象が全く違う。部屋を開けた途端、強烈な匂いがやって来る。何かが腐った匂いというのは分かるのだが、部屋にあるものすべてが腐っているように見えるので、何が腐っているのかは分からない。

神からしたらこの世界もごみ屋敷のように見えるのだろう。この世にあるごみとは私達の罪そのものだ。様々な罪や汚れ、理不尽なこと、残酷なこと、いやらしいこと、冷たいこと、怒り憎しみ争い、いわゆる「子供には見せられないようなもの」で満ち溢れている。

私達大人がそれを見ても特に何にも感じないのは、あたかもごみ屋敷の住民が汚い部屋でも平然としていられるように、その汚さに慣れてしまっただけだろう。どうしてイエスは汚い家畜小屋で生まれたのか。神からしてみたらこの世界というのは家畜小屋のように汚れたところであることを私達に教えるためだったのではないだろうか。

ピリピ 2:6-8 はキリストのへりくだった姿を教えているが、それは私達が通常イメージしているような「謙遜」とははるかに違ったレベルのものだった。イエスは罪で汚れたこの世に來てくださった。これはごみ屋敷の住民の友となるために、その人と同じごみ屋敷に住むというとんでもない話なのだ。今日はキリストの謙遜について学んでみたい。

① 本当の謙遜

謙遜であることはこの世の中においても美德であるとされているし下出に出た方が色々とうまくいくこともある。またクリスチャンにおいては謙遜であればあるほど靈的に成熟していると思われる。だから私達は謙遜になろうとする。いや、謙遜に見えるようにふるまう。

ある人がコンサートに來た時に前の方の良い席を勧められた。だがその人は自分の謙遜さ

を示そうとして「いえ、自分などはこんな良い席にはふさわしくない。後ろで立っている」と言った。当然「そんなことはない。どうか前の席に座ってくれ」と言われることを期待していたわけだが、案内人から「確かにそうだ。では後ろの方に立っていてくれ」と言われてムツとしたという。

本当に謙遜な人だったらそう言われてもむっとしないだろう。謙遜であるかのようにふるまっていただけだったのだ。気をつけないと私達もどうしたら謙遜に見えるかということに気にして謙遜であるかのように装うことばかり上手になっていってしまう。もうその時点で謙遜でない。

では本当の謙遜とは何なのか。「神のあり方を捨てられないとは考えず、ご自分を無にして」とある。別の翻訳によれば「神と等しいものであることに固執しようとは思わず」だ。キリストがこの世に来た時、光り輝く栄光の姿で来られたのだろうか。数えきれないほどの天使の軍団を引き連れてこられたのだろうか。そのようなものは何一つなく、人間の赤子という最も無力な形で来られた。

キリストは神として全ての人を服従させる正当な権威を持っている。全ての讃美と栄光を受けるに値する方だ。しかしキリストはそれらにこだわることはしなかった。「神のあり方を捨てる」とはそのようにキリストが受けて当然の権利、扱いを自ら放棄するということだ。

本当の謙遜とは自分の当然の権利を手放すということだ。ここで重要なのは手放すのが「当然の権利」ということだ。例えば何かいいことをして皆から感謝されることは当然のことだ。感謝がない時、正直にどう感じるか。「せっかくなやっただけなのに何だよ」と感じてしまう。本当に謙遜な人は感謝されなくても気にしない。その人の役に立てたこと自体を喜びとしているからだ。

また世の中にはどう考えても自己中心的な人がいる。そういう人に自分の権利が侵害されたら怒るだろう。ちなみに間違ったことに対して抗議したり、怒ること自体は悪いことではない。時にそうした方がいいだろう。

しかし謙遜な人は自分の権利が侵害されても甘んじてそれを受け止めていくことができる。そして謙遜な人は自分が大切にされていなくても気にしない。自分が大切にされているのではなく、自分は他の人を大切にできているか、ということに気になっているからだ。

本当の謙遜とはほめられた時に「いやそんなことはない」と言うような表面的なものではないのだ。それは私達の人格そのものであり、特に理不尽な人によって自分の正当な権利が脅かされたときに現れる。そのような視点で謙遜を考えてみると、私達が謙遜だと思っていることがどれほど見せかけのものだったか気づくだろう。

②イエスが謙遜な理由

どうしてイエスはそこまでして謙遜な方なのか。そうでなければ私達人間と付き合いにくくなどできないからだ。

先日 You tube である動画をみた。それは、社会で成功している人は人間関係の損切が上手い人というのだ。「この人と付き合っても自分にはメリットない」と感じたら上手にその人と疎遠になっていく。人生のストレスの大半は人間関係によるものなのでこうすることで時間もエネルギーも有効に使えるという訳だ。

人間関係の損切という言い方は別としても、ある程度はそれも大事なことだと思う。一緒にいて悪影響を受けるような人とは極力関わらないようにするのは自分を守るという意味でも大切だ。

しかし中にはいい意味で「よくこの人と付き合っているな」と思うような関係を築いている人もいる。「自分だったら絶対この人と縁を切ってしまう」と思えるような人とも付き合い合っていくことができる人がいる。

そういう人に共通していることは、非常識なことをされてもゆるしているし、許容範囲が広い。換言すれば自分の権利が侵害されても腹を立てない謙遜さがあるともいえる。謙遜でない人だと普通なら縁を切られてしまうような人と長く付き合い合っていくことができないのだと思う。

もしイエスが謙遜でなければ人としてこの地上に来られることなどできないだろう。仮に来たところですぐに腹を立てて人間を滅ぼすことになるか、天に帰ってしまうことになる。私達がイエスと交わりを持っているのはひとえにイエスの謙遜さがなせる業だと言える。

イエスは世界で最も偉大な方だ。この世の全て、私達の命もお金も全てイエスのものだ。私達は口では「イエスが一番大事、イエスを優先させる」という。だが実際の歩みを見ると決してそんなことはない。

他の人には決してしないような裏切りだったりいい加減な態度もイエスに対してとっているのではないか。どうして他の人との約束は極力守ろうとするのにイエスとの約束はいい加減なのか。

イエスは私達に対して約束を破ったことなど一度もない。イエスは一方向的にずっと約束を破られ続けているのだ。普通、しょっちゅう約束を破る人とは縁を切る。それでも私達と縁を切ることなく友としてくださっているのは、イエスが謙遜な方だからだ。

③ 謙遜の祝福

謙遜でいることの最大の祝福は人間関係をうまくしていくことにあると思う。性格的に問題のある人と付き合い合っていくには謙遜でなければならない。「私は性格的にまともな人としてか付き合わない」という人なら損切をその都度していけばよいだろう。だがあなたもいつか損切される運命にあるということは覚えておかなければならない。

パウロはこのキリストのへりくだり箇所をどのような文脈で教えているか。ピリピ教会の人間関係の問題と関連させている。

ピリピ 2 : 1~5

1. こういうわけですから、もしキリストにあって励ましがあ、愛の慰めがあ、御霊の交わりがあ、愛情とあわれみがあなら、
2. 私の喜びが満たされるように、あなたがたは一致を保ち、同じ愛の心を持ち、心を合わせ、志を一つにしてください。
3. 何事でも自己中心や虚栄からすることなく、へりくだって、互いに人を自分よりもすぐれた者と思いなさい。
4. 自分のことだけではなく、他の人のことも顧みなさい。
5. あなたがたの間では、そのような心構えでいなさい。それはキリスト・イエスのうちにも見られるものです。

当時のピリピ教会内には人間関係の問題があったようだ。興味深いことに 4 : 2 では渦中にある人が名指しされている。

ピリピ 4 : 2

ユウオデヤに勧め、スントケに勧めます。あなたがたは、主にあって一致してください。

「ユウオデヤとスントケ」という女性だった。

パウロが目指した教会とは互いに謙遜を身に着けることで主にあって一致していくものだった。そこには損得で割り切る人間関係などない。この世の中にも教会にもどうしても自己中心的な人、未熟な人はいるが、そのような人さえも自分に謙遜さを教えてくれるために必要なのだ。

さて話を冒頭の家畜小屋に生まれたキリストに戻そう。家畜小屋のように汚れているのはこの世界だけでなく、私達の心こそがそうなのではないだろうか。もし自分の心が汚れていないと思うのなら、自分が思ったことを全て口に出して生活してみればよいだろう。良い言葉よりも悪い言葉の方が圧倒的に多いと思う。まず注目したいのはごみ屋敷のような私達の心にキリストが生きてくださっていることのすばらしさだ。

こんな汚い心の中にもキリストが生きてくださっているのはキリストが信じられないほど謙虚な方だからだ。謙虚になりたいなら、まず自分の心の中にキリストが住んで下さっているということにしっかり思いを向けよう。謙虚を装うのではなく、心から謙虚な人になるためには心の内側にあるキリストの力と恵みとその御性質が表に出てこなければならない。

心の中のキリストを大事にしていこう。キリストの謙遜さによって今の自分があるのだと思えば、私達も少しは謙遜になれるのではないか。